



おとなのデンタルヘルス サポート事業

(大学・専門学校支援モデル事業)

報 告 書

令和4年3月

新潟県

(公財)新潟県歯科保健協会

目次

○はじめに	．．． 2
○新潟県の歯科保健の現状と課題	．．． 3
○事業の概要（大学・専門学校への支援モデル事業）	．．． 4
○県内大学・専門学校における歯と口の健康づくりに関する取組みの実態	．．． 5
○モデル校での歯科保健に関する取組み内容	
・令和元年度	．．． 6
・令和2年度	．．． 7
○歯科保健に関する取組みの成果	．．． 8
○モデル校一覧	．．． 9
○モデル校での取組みの実際	
・No.1 新潟国際情報大学	．．． 10
・No.2 新潟県立看護大学	．．． 12
・No.3 クレアヘアモード専門学校	．．． 14
・No.4 JAPANサッカーカレッジ	．．． 16
・No.5 国際こども福祉カレッジ （保育分野・福祉系分野）	．．． 19
○学生の現状とニーズ	．．． 23
○歯科保健活動用 媒体紹介	．．． 28
○おわりに	．．． 29

○はじめに

新潟県では、令和元年度から、全国トップクラスの健康寿命を目指す「健康立県」の実現に向け、生きがい・幸福度を軸に5つのテーマで県民運動を展開しております。

テーマのひとつである「デンタルケア」では、キャッチフレーズを「あなたのための、歯のプロを。」とし、かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科健診を行うことの必要性等を広く知ってもらうために取組を進めてきたところです。

その一環として、令和元年度から令和3年度にかけて「おとなのデンタルヘルスサポート事業」と題したモデル事業を、大学や専門学校で実施して参りました。

本事業では、主に歯科健診や歯科保健指導を行い、青少年期の歯周病予防に効果的なアプローチ方法を検証しました。新型コロナウイルス感染症の影響下では、質問紙による歯科健診プログラム（生活歯援プログラム）や SNS を活用するなど、各校の実情に合わせて様々な工夫を凝らした歯科保健の取組を実施し、事例を積み重ねてきたところです。本報告書は、各校で取り組んだ事例に加え、現場の学生や先生方の声等も含めてまとめたものとなります。

心と体の健康を保ち、豊かな毎日を送るためには、よく噛んで美味しく食事ができることが必要不可欠です。そのためにも若い世代からの歯と口の健康の維持、良い口腔衛生習慣の定着は無くてはならないものですが、専門学生や大学生になると、個人の努力に任されてしまうのが現状です。

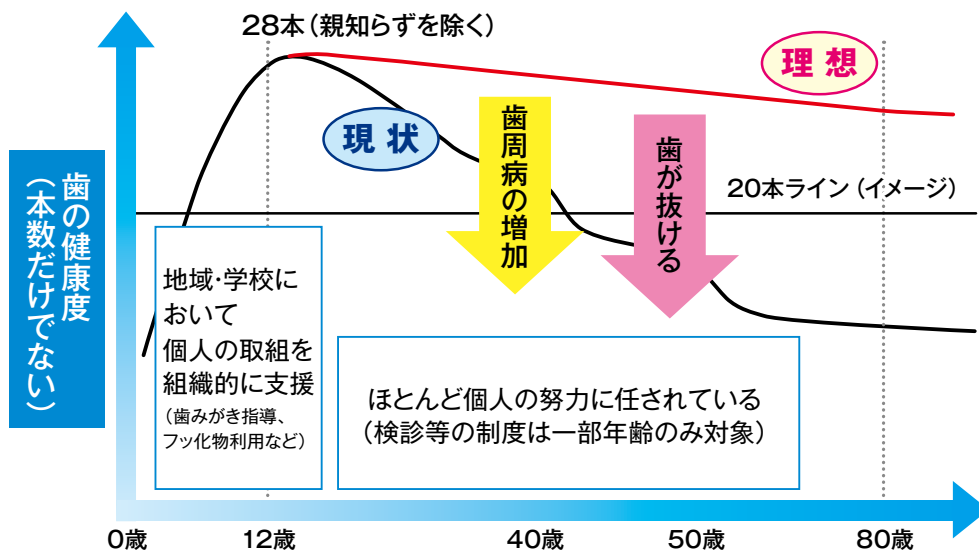
特に、社会に人材を送り出す直前の教育の場であるからこそ、専門学校や大学において本書を御活用いただき、学生の健康づくりに取り組む一助となれば幸いです。

○新潟県の歯科保健の現状と課題

新潟県は昭和56年から、子どものむし歯予防に重点を置き、学校や教育委員会、新潟県歯科医師会、地域の歯科医院など関係する機関と連携を図りながら様々な対策を積極的に推進しています。

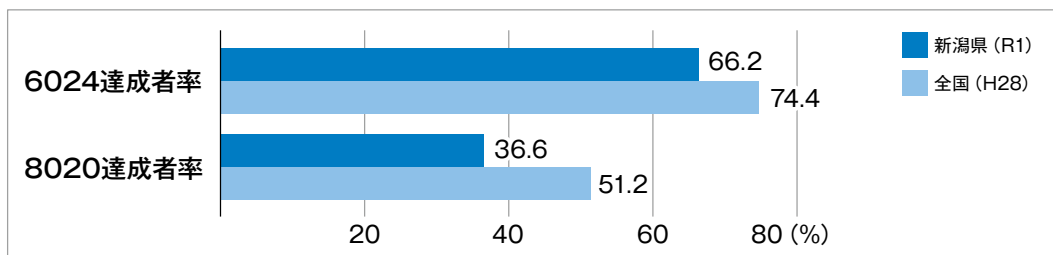
その結果、現在では12歳児(中学1年生)の1人平均むし歯数が0.3本、生徒の8割は永久歯のむし歯(治療済みの歯も含む)が1本もありません。これは、全国で最も低い数値です。

しかし、高校生(学生期)までは、学校で歯科健診を受けているものの、大学生や社会人になるとお口の健康については個人の努力に任されているのが現状です。



子どもの時には素晴らしい成果を上げていますが、中高年期においては、残念ながら全国平均よりも歯科保健水準の指標である「6024※1」「8020※2」達成率が低い結果となっており、成人期以降のお口の健康づくりが課題となっています。

※1 60歳で24本以上自分の歯を保つこと ※2 80歳で20本以上十分の歯を保つこと



そこで、成人(社会人)期のはじまりの段階である大学・専門学校を対象にモデル校を選定し、その学生に対して歯科保健指導等を行い、効果的なアプローチ方法を検討することを目的に本事業を実施しました。

○目指す姿(事業目標)

- ・ 歯科医院を受診する学生の増加
- ・ 歯間部清掃用具を使用している学生の増加
- ・ 昼食後に歯みがきを行う学生の増加

事業の概要(大学・専門学校への支援モデル事業)

1 県内大学・専門学校を対象に歯科保健に関する取組みについてアンケート調査を実施



2 モデル校の学生を2グループに分けて、それぞれ歯科保健に関する取組み等を行い、追跡アンケートを行うことで、その後の行動や意識の変化について調査を実施

※比較としてモデル校とは別の大学・専門学校でアンケート調査のみ実施(グループ③)

【グループ別実施内容】

グループ	令和元年度	令和2年度	令和3年度
【グループ①】 歯科健診・ 保健指導実施群	■学生アンケート調査(毎年度1回) 学生のお口の健康に対する習慣や意識等について追跡調査し、下記歯科保健に関する取組みを行ったことで、習慣や意識に変化があったかを調査 (一部学生は就職後まで追跡)		
	■歯科保健に関する取組み 歯科健診や歯科保健指導等、歯科保健に関する取組みを実施 令和2年度では、令和元年度に行った学生のニーズ調査を踏まえた取組みも実施 (取組みの詳細はP6~P7)		
	■学生のニーズ調査 お口の健康維持のための望ましい生活習慣を身に付け、同世代に広めていくためには、どのような環境やどのようなことが必要になるのかをインタビュー等で、学生視点からの意見の聞き取りを実施		
【グループ②】 保健指導実施群	■学生アンケート調査(毎年度1回) 学生のお口の健康に対する習慣や意識等について追跡調査し、歯科保健指導を行ったことで、習慣や意識に変化があったかを調査 (一部学生は就職後まで追跡)		
	■歯科保健に関する取組み 歯科保健に関する取組みとして、歯科保健指導のみ実施		
【グループ③】 比較対象群	■学生アンケート調査(毎年度1回) 歯科保健に関する取組みを行ったグループとの比較を目的に学生のお口の健康に対する習慣や意識等について追跡調査を実施		

※モデル校の実情に応じて取組みを行ったため、モデル校によりスケジュールや実施内容が一部異なる。

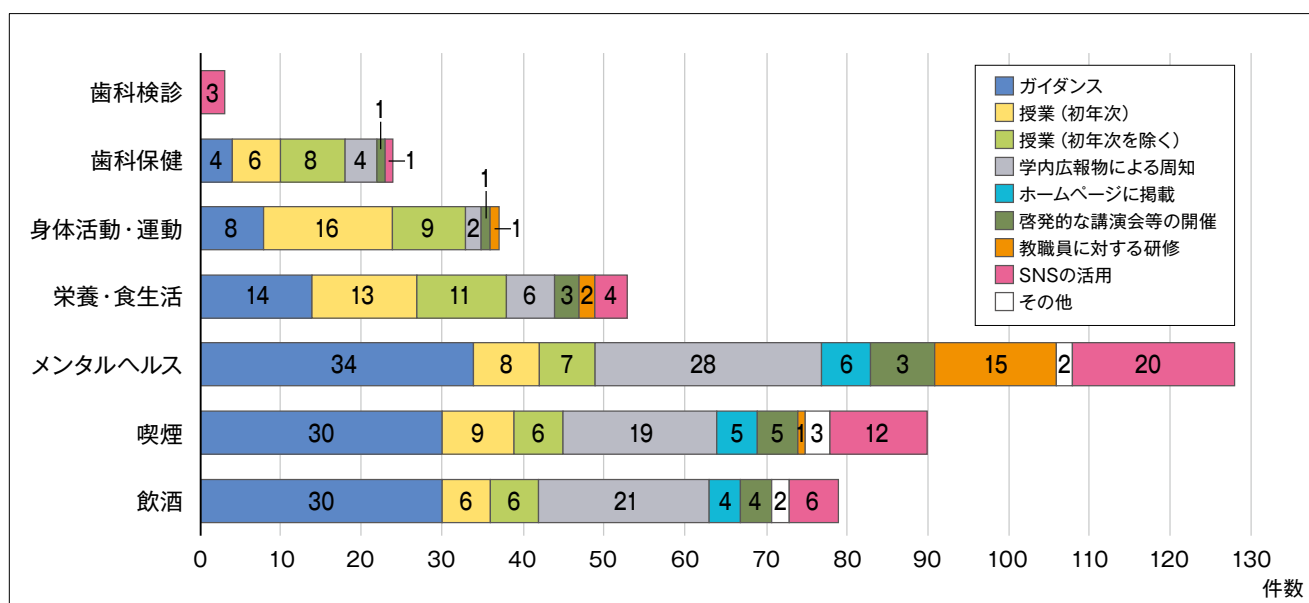
県内大学・専門学校における 歯と口の健康づくりに関する取組みの実態

新潟県内の大学及び専門学校を対象に大学・専門学校における歯と口の健康づくりに関する取組みについてアンケート調査を行った。

- 対 象：大学（短期大学含む）及び専門学校 114 件 ※4 年制及び 6 年制においては、各学部へ送付
- 実施時期：令和元年 5 月
- 回 答 数：70/114 件（61.4%）

1 健康づくりに関する学生への指導・啓発等、実施している取組みについて（※複数回答可）

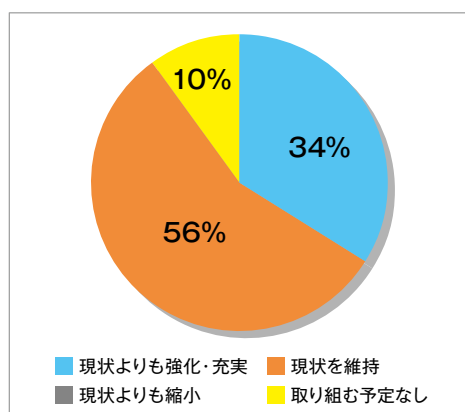
歯科保健に関しては、他の項目と比較すると全体的に取組みが少なく、歯科健診を実施していると回答した学校はわずか 3 校（学部）であった。



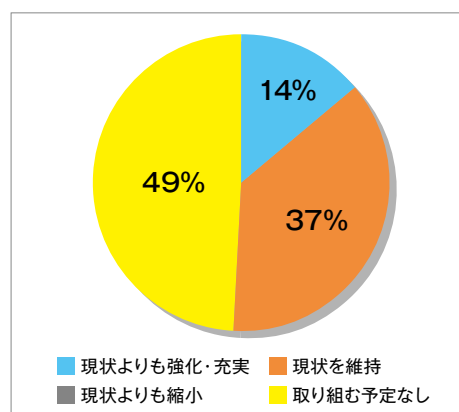
2 健康づくりに関する取組み方針と歯科保健に関する取組み方針について

健康づくり全般に関する取組み方針と歯科保健に関する取組み方針について「現状より強化・充実させたい」と回答した学校（学部）の割合は、健康づくり全般については 34%、歯科保健に限るとその約半数の 14%であった。

○健康づくりに関する取組み方針



○歯科保健に関する取組み方針



モデル校での歯科保健に関する取り組み内容

【令和元年度】

① 歯科健診

地域や大学の歯科医師協力のもと、歯科健診を行った。
歯の状態だけでなく、歯ぐきの状態やお口の清掃状況、歯石の付着状態などもチェックした。（所要時間：1名あたり約5分）



＋唾液潜血検査

お口の中の血液の成分に反応する試験紙（ペリオスクリーン®）を用いて、歯周病の疑いがあるかスクリーニング検査を行った。
（所要時間：5分程度）

② 歯科保健指導

モデル校の実情に合わせて、下記いずれかの方法で保健指導を行った。

○個別歯科保健指導

歯科健診の結果に基づいた指導及びお口の状況に応じたブラッシング指導
（所要時間：1名あたり約15分）



○集団での歯科衛生講話

歯科衛生士が、モデル校の専門性に合わせて、歯や口の病気と全身の病気との関わりについての講話やお口の清掃用具の正しい使い方についての実習
（所要時間：50分～90分）



○歯科保健情報チラシの配布

お口のケア用品の正しい使い方についてまとめたチラシの配布

歯科保健に関する取り組みの他に・・・

学生のニーズ調査として**インタビュー（またはディスカッション）を行いました！**

お口の健康維持のための好ましい生活習慣（昼食後の歯みがき・デンタルフロスの使用・定期的な歯科健診の受診）を同世代に広めていくためには、どうすればよいか・・・学生の声を聞きました。

インタビュー結果は・・・P23～27 ページ

モデル校での歯科保健に関する取組み内容

【令和2年度】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、基本的に非接触型の取組みを行った。

① 生活歯援プログラム

生活習慣を見直すためのプログラムを下記の流れで実施した。

○20問のアセスメント項目に回答



○アセスメントの回答結果からリスクを診断

診断結果とあわせて、歯科保健指導動画を配信



○コミュニケーションアプリ LINE で歯科保健相談の受付・定期的な歯科保健情報の配信
(約3ヶ月間)



○再度20問のアセスメント項目に回答



○事前事後のアセスメントの回答から、生活習慣の変化について結果通知



前年度のニーズ調査(インタビュー等)の結果を反映

② お口のケア用品の設置

約1カ月間、学生が自由に使用できるお口のケア用品(様々な歯ブラシ・デンタルフロス・デンタルリンス等)の設置



前年度のニーズ調査(インタビュー等)の結果を反映

③ SNSでの情報発信

SNSアプリ(Instagram)で歯科保健情報や各学校での取組みについての情報を発信



歯科保健に関する取組みの他に・・・

どのような環境下で歯科保健行動をとっている？

歯科保健行動調査を行いました！

お口の健康維持のための望ましい生活習慣(昼食後の歯みがき・デンタルフロスの使用・定期的な歯科健診の受診)について、どのような環境・状況下で行っているか、WEB調査を行いました。

歯科保健行動調査の結果は・・・P23～27ページ

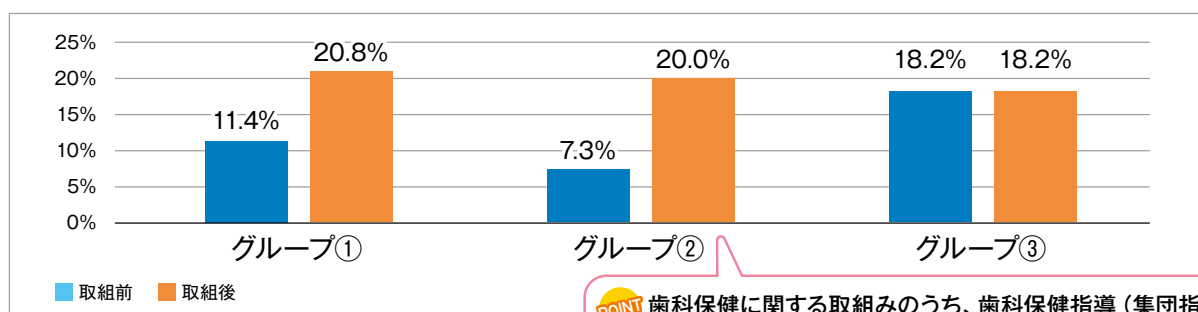
歯科保健に関する取組みの成果

本事業の実施において、新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、アンケート対象者に大きな制限を余儀なくされたが、継続的に調査できたデータより下記の結果が得られた。

■ 歯科保健に関する取組みを行ったことで、デンタルフロスを使用する学生が増えた

【デンタルフロスを使用する者の割合(R1年度とR2年度・グループ別比較)】

	取組前 (R1年度)	取組後(R2年度)
グループ① (歯科健診・保健指導実施群)	17名/149名	⇒ 31名/149名
グループ② (保健指導実施群)	4名/55名	⇒ 11名/55名
グループ③ (比較対象群)	16名/88名	⇒ 16名/88名

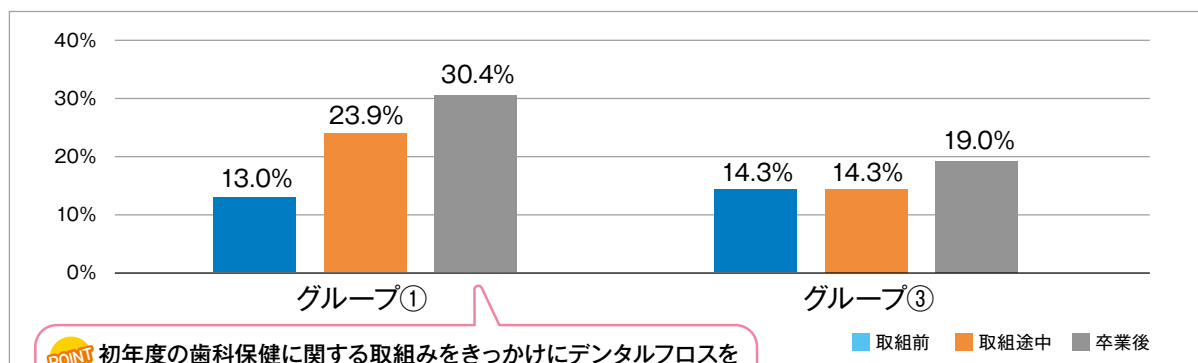


POINT 歯科保健に関する取組みのうち、歯科保健指導(集団指導)を行うだけでもデンタルフロスを使用する学生が増えた。

■ 歯科保健に関する取組みを継続したところ、多くの学生が卒業後(進級後)に環境が変わってもデンタルフロスを使用する習慣が続いていた

【デンタルフロスを使用する者の割合(R1年度～R3年度・グループ別比較)】

	取組前 (R1年度)	→→→→→→→ (R2年度)	卒業後 (R3年度)
グループ① (歯科健診・保健指導実施群)	6/46名	⇒ 11/46名	⇒ 14/46名
グループ③ (比較対象群)	3/21名	⇒ 3/21名	⇒ 4/21名



POINT 初年度の歯科保健に関する取組みをきっかけにデンタルフロスを使用するようになった学生の8割は、卒業後(進級後)までデンタルフロスを使用する習慣が続いていた。

社会人になると自身の健康管理は個々の努力にゆだねられている状況であり、大学・専門学校は、集団的アプローチができる最後の砦である。

そこで歯科保健指導等を行うことで、歯と口の健康管理の一環である”歯間部清掃用具を使用する習慣”が定着する傾向がみられた。一方、定期的に歯科医院を受診する者の割合に有意な変化はなく、行動変容のハードルの高さがうかがえた。(しかし、新型コロナウイルス感染症のため歯科医院への受診控えがあったという可能性も否定はできない)

モデル校一覧

■グループ①（歯科健診・保健指導実施群）

学校名	学 年		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新潟国際情報大学	2年生	3年生	4年生
新潟県立看護大学	2年生	3年生	4年生
クリアヘアモード専門学校	1年生	2年生	新卒生
JAPAN サッカーカレッジ	1年生	2年生	3年生 または 新卒生 <small>(学科により異なる)</small>
国際こども福祉カレッジ	こども保育学科	1年生	2年生
	福祉健康サポート学科	1年生	2年生
			新卒生
			新卒生

※ は感染症拡大に伴い、学生アンケート・取組み中止

■グループ②（保健指導実施群）

学校名	学 年	
	令和元年度	令和2年度
新潟国際情報大学	3年生	4年生
新潟県立看護大学	3年生	4年生
クリアヘアモード専門学校	2年生	新卒生
JAPAN サッカーカレッジ	2年生	3年生または 新卒生 <small>(学科により異なる)</small>
国際こども福祉カレッジ	こども保育学科	2年生
	介護福祉学科	2年生
		新卒生
		新卒生

※ は感染症拡大に伴い、学生アンケート・取組み中止

モデル校No.1 新潟国際情報大学

【基本情報】（令和元年度時点）

1 参加学生

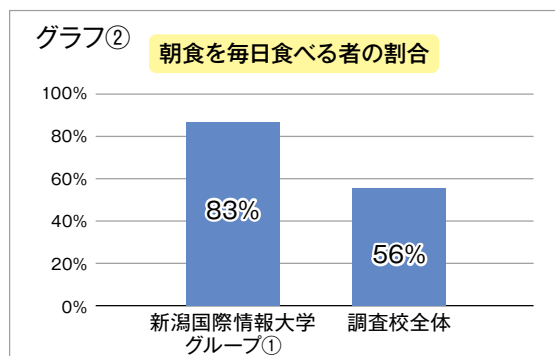
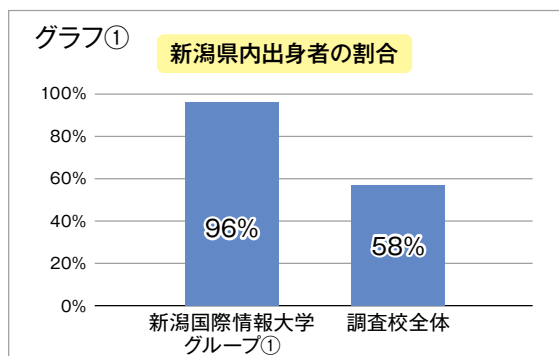
学部/情報文化学部・国際学部

グループ① 2年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 275名

グループ② 3年生（歯科保健指導実施群） 282名

2 学生の特徴

・9割以上の学生が新潟県内出身・実家から通学していることもあり、朝食を毎日食べる者の割合が全体に比べて高い



3 学校の実情

- ✓単位制のため、学部全員が集まる機会に限られる
- ✓授業以外の取組みについては、授業時間外で行う



【実情を踏まえた取組みの工夫】

- ・授業時間外で取組みを行うことから、対象学年のうち希望者を対象に取組みを行った。
- ・学部全員が集まる機会であるガイダンス後や健康診断後の時間を使い取組みを行った。

【取組内容】

■グループ①

令和元年度 ※R2年度に持ち越して実施

歯科健診

歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和2年度

生活歯援プログラム

リスク診断

歯科保健指導動画の配信

コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信

口腔清掃用具の設置

SNS (Instagram) で情報配信

■グループ②

令和元年度 ※R2年度に持ち越して実施

歯科保健指導（集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和元年度末のガイダンス後に歯科健診等を計画していたが、感染症拡大に伴い中止。
歯科保健情報の提供としてチラシの配布のみ次年度に持ち越して健康診断の機会に行いました。
令和2年度は感染症拡大に伴い、オンライン授業となったため可能な項目のみ取り組んだ。

【学校担当者の感想】

健康診断同様、学生の健康管理・維持に必要な取組みだと思えますが、職員側のマンパワーの問題で十分に実施できなかったことが残念でした。ポータルサイトでのメッセージ配信やポスター等のような形での情報発信であれば容易に実施できるかと思えます。

歯科健診が学校保健安全法上の必須項目でない以上、大学での取組みは難しいのではないかとありますが、健診実施機関と協力して健康診断に歯科健診を組み込むプラン作成や、学園祭での歯科ブースの出展等、工夫次第ではできることもあるかと思えます。

モデル校No.2 新潟県立看護大学

【基本情報】（令和元年度時点）

1 参加学生

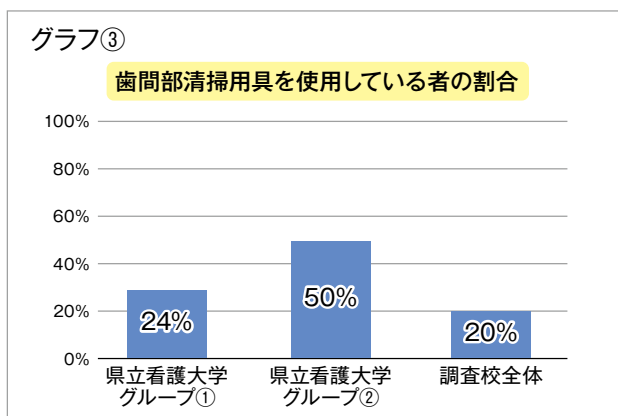
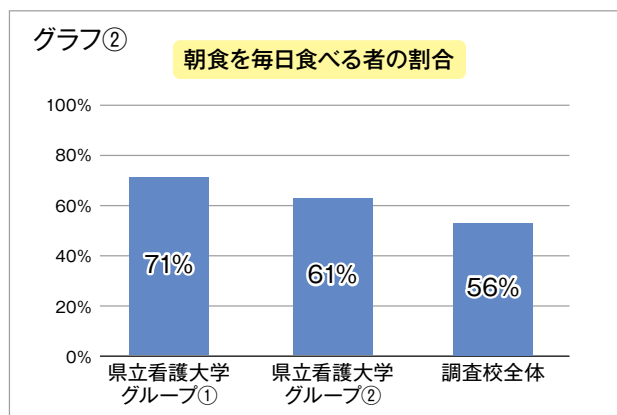
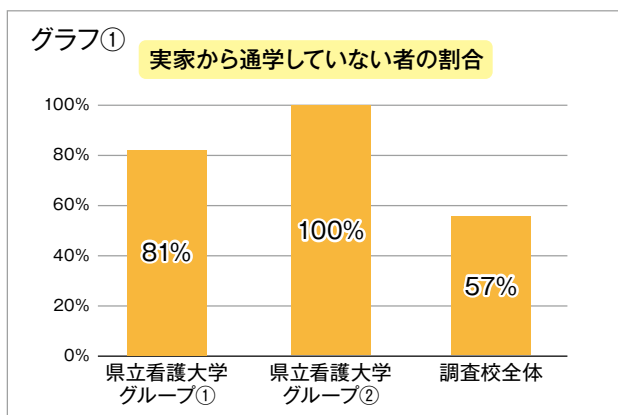
学部/看護学部

グループ① 1年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 153名

グループ② 2年生（歯科保健指導実施群） 97名

2 学生の特徴

一人暮らしをしている学生が多い中、「朝食を毎日食べる者」、「歯間部清掃用具を使う者」の割合が全体と比べて高く、自身の健康管理について意識している学生が多い。



3 学校の実情

- ✓実習により毎日学校へのスクーリングがない期間がある
- ✓実習期間は実習班別に動きが異なる
- ✓授業以外の取組みについては、事業時間外で行う



【実情を踏まえた取組みの工夫】

- ・授業時間外で取組みを行うことから、対象学年のうち希望者を対象に取組みを行った
⇒事前にチラシで歯科健診・保健指導等の案内を行い、希望者を募った
実習のある学年は、実習班ごとに担当教員を通じて案内を行い、希望者を募った
- ・実習のある学年は、スクーリング日に取組みを行った

【取組内容】

■グループ①

令和元年度

歯科健診

歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和2年度 **感染症拡大に伴い取組み中止**

生活歯援プログラム

リスク診断

歯科保健指導動画の配信

コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信

口腔清掃用具の設置

SNS (Instagram) で情報配信

■グループ②

令和元年度

歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

【取組の様子】

■グループ①

～歯科健診・歯科保健指導（個別歯科保健指導）の様子～

90分間で歯科健診・歯科保健指導の他、アンケートやインタビューを行った。項目が多いため、最初に全体の流れを説明し、歯科健診の待ち時間にアンケートの回答、インタビューシートの記入を行った。

参加者は一人暮らしをしている学生が多く、歯科健診後の歯科保健指導では「定期健診に行きたいが、どこの歯医者にかかればよいかわからない」との相談が多かった。



■グループ②

～歯科保健指導（集団での講話）の様子～

医療に従事する学生であるため、講話内容が残るよう小冊子を配布して行った。

中には助産師を目指す学生もおり、「歯周病と早産・低体重児出産との関係」について熱心にメモをとる様子がうかがえた。

また、講義の内容に興味を持ち、当日飛び込みで参加する学生も数名いた。



【学校担当者の感想】

今回は学生の参加者が少なかったため、学生の反応や変化を確認することは困難でしたが、アンケートの中に「よかった」という感想がみられました。

モデル校No.3 クレアヘアモード専門学校

【基本情報】（令和元年度時点）

1 参加学生

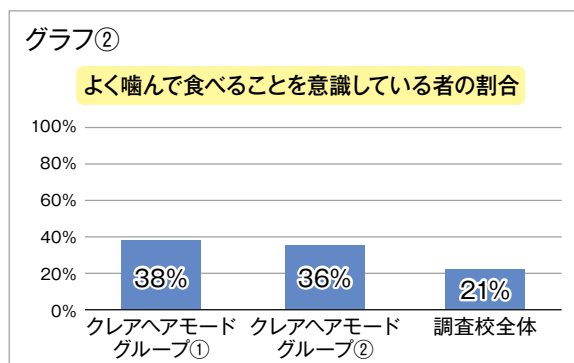
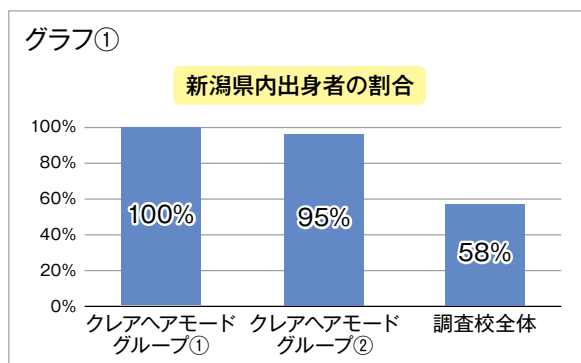
学科/美容師科（通学課程・通信課程）

グループ① 1年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 21名

グループ② 2年生（歯科保健指導実施群） 22名

2 学生の特徴

- ・新潟県内出身者が9割以上で、よく噛んで食事をする習慣のある学生が全体に比べて多い



3 学校の実情

- ✓美容師科には2課程（通学課程・通信課程）ある
- ✓授業科目の解剖学の中で口腔についても学ぶため、取組み自体が学生の知識の習得にもつながると考えている



【実情を踏まえた取組みの工夫】

- ・通信課程はスクーリング日が限られるため、通学課程を対象に取組みを行った。
- ・取組みが少なからず学業にも関係することから、事業時間を使い取組みを行った。

【取組内容】

■グループ①

令和元年度

- 歯科健診
- 歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和2年度

- 生活歯援プログラム
- リスク診断
- 歯科保健指導動画の配信
- コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信
- 口腔清掃用具の設置
- SNS (Instagram) で情報配信

■グループ②

令和元年度

☑歯科保健指導（☑集団での講話 □個別歯科保健指導 □情報チラシの配布）

【取組の様子】

■グループ①

～歯科健診の様子～

自分のお口の中が気になってはいたが、受診の踏ん切りがつけられなかった学生も多く、健診を機会に歯科医師や歯科衛生士に個別に質問をしていた。

～口腔清掃用具設置の様子～

教室後方の実習で使用するシンクで歯みがきを行う学生が多いことから、この場所に用具を設置し、口腔清掃用具の選択や使い方のポイントについてポスターを併せて掲示したところ、70%の学生が用具を使用していた。



■グループ②

～歯科保健指導（集団での講話）の様子～

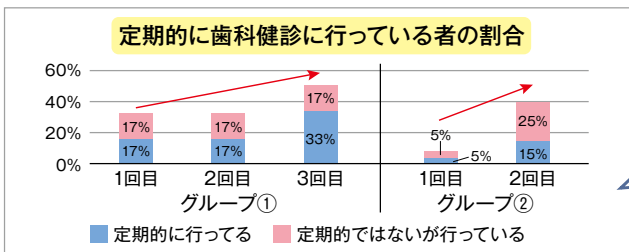
講話スライドを大型モニターに映しながら実施。

実習では歯みがきセットを配布し、清掃用具の使用方法を確認した。

美容師の国家試験で「人体の構造と名称」より歯の本数や名称等が出題されることがあることから、熱心にメモをとっていた。

【学生にみられた変化】

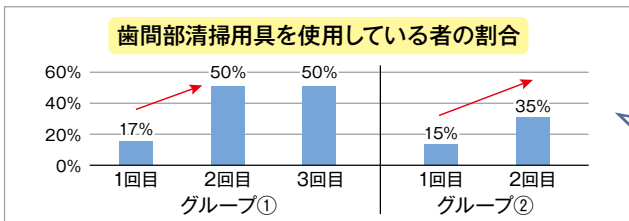
○定期健診を受ける人が増えました！



【学生の声】

- ・健診でむし歯が見つかってようやく歯医者さんにいこうと決心ができました。
- ・歯医者さんにいくための日を学校ごと・会社ごとに作ったらいいのと思いました。

○デンタルフロスを使用する学生が増えました！



【学生の声】

- ・糸ようじをしてみて、糸ようじって大切だなと思った。1日1回できなくても、思い出したときにやろうと思う。
- ・デンタルフロスは必要ないと思っていたけど使った方がよいことを知りました。

【学校担当者の感想】

歯科保健に関する取組みをおこなったことで、昼食後に歯みがきをしなかった学生が歯みがきやフロスをするようになりました。

学年の特色にもよるが、年代的にこのような取組みに関して面倒に思う学生もいるのが現状ですが、歯科保健に関する講話も真面目に聞き、意識が高まったが学生も複数いました。

モデル校No.4 JAPANサッカーカレッジ

【基本情報】（令和元年度時点）

1 参加学生

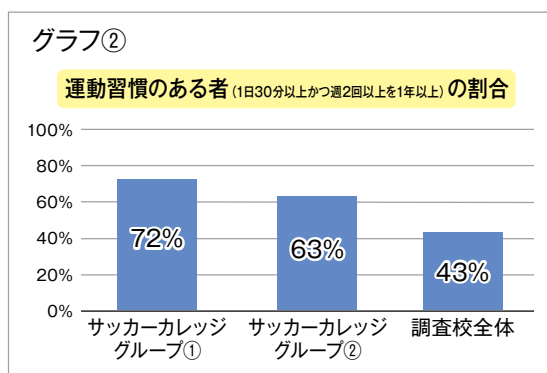
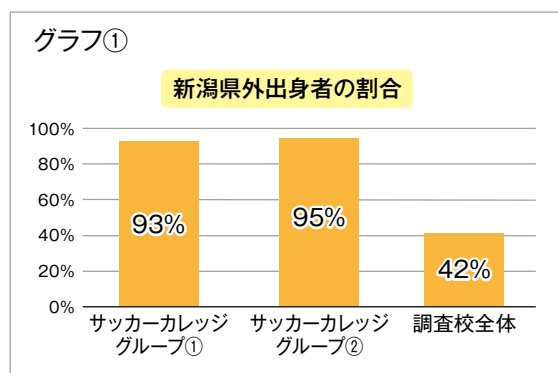
学科/サッカー専攻科・サッカー研究科・マネージャートレーナー科・コーチ審判専攻科・
サッカーコーチ研究科・サッカービジネス科・サッカートレーナー専攻科

グループ① 1年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 153名

グループ② 2年生（歯科保健指導実施群） 97名

2 学生の特徴

- ・9割以上の学生が新潟県外出身であり、一人暮らしや寮で生活している。
- ・男子学生の割合が多い。
- ・選手コースの学科もあり、運動習慣のある学生が多い。



3 学校の実情

- ✓全8学科あり、学科によりスケジュールが異なる。海外遠征や県外遠征もある。
- ✓学校の年間スケジュールが、サッカー界のゲームシーズンや契約期間に合わせて組まれている
- ✓自身の健康管理や選手の健康管理を支えることが仕事となる学科もあり、健康づくりや栄養学についての授業もある。スポーツと歯や口の関連についても重要だと考えている。



【実情を踏まえた取組みの工夫】

- ・多くの学生が遠征にでている学科もあったため、取組みが可能な7学科の学生を対象に取組みを行った
- ・取組みが少なからず卒業後の仕事にも関係することから、授業時間を使い取組みを行った
- ・学科によりスケジュールが異なる為、歯科保健指導は学科単位で行った

【取組内容】

■グループ①

令和元年度

☑歯科健診

☑歯科保健指導（☑集団での講話 □個別歯科保健指導 □情報チラシの配布）

令和2年度

☑生活歯援プログラム

☑リスク診断

☑歯科保健指導動画の配信

☑コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信

☑口腔清掃用具の設置

☑SNS (Instagram) で情報配信

■グループ②

令和元年度

☑歯科保健指導（☑集団での講話 □個別歯科保健指導 □情報チラシの配布）

【取組の様子】

■グループ①

～歯科健診の様子～

人数が多いため、2授業コマ数を使い歯科医師3名体制で実施した。

混雑を避けるため、学科ごとに25分ずつ時間をずらして健診会場に集まり行った。

～口腔清掃用具の設置～

感染症流行下での実施となり、感染症予防の観点から1ヶ所に学生が集中することを避けるため、校内3ヶ所の水場に用具及びポスターを設置した。

約8割の学生が設置された清掃用具を使っていた。



■グループ②

～歯科保健指導（集団での講話）の様子～

授業時間を使い、講話スライドを大型モニターに映しながら実施。

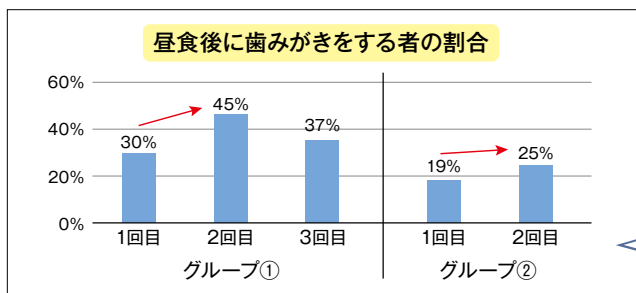
学科により栄養学を学んでいる学生もいるため、基本的な内容に加え、「現在歯数と栄養摂取量の関係」についても説明。

実習では歯みがきセットを配布し、清掃用具の使い方を確認したところ、このような歯やお口に関する授業を初めて受けたと話す学生が複数名おり、興味深々で取り組んでいた。



【学生にみられた変化】

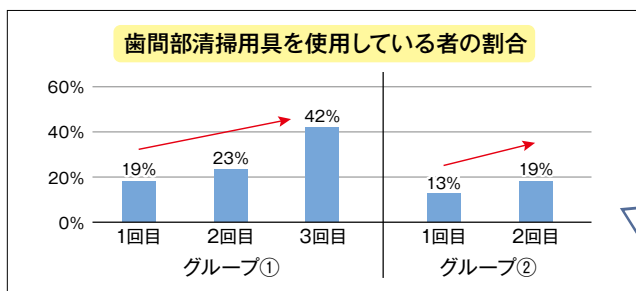
○より多くの学生が毎日歯みがきを行うようになりました！



【学生の声】

- ・ 事業が始まる前より歯みがきをしている学生をみかけるようになった。
- ・ 歯科健診と歯みがきセットをもらえたことで意識があがり、自然と歯をみがく癖ができました。

○デンタルフロスを使用する学生が増えました！



【学生の声】

- ・ デンタルフロスを初めてもらい、使ってみてこれからも続けて使用していこうと思いました。
- ・ デンタルフロスは今までなかったことがなかったが、歯科保健講話を聞く中で夜は毎日使うようになった。

【学校担当者の感想】

主観的な感想として、歯科保健に関する取組みを行ったことにより、洗面所で口腔清掃を行っている学生をよく見かけるようになり、学生自身の自らの健康に対する考えがより深まったと考えます。また、周りの学生がしていることで、他の学生も気づくという良いサイクルが生まれてくるのではないかと思います。

モデル校No.5 国際こども福祉カレッジ

～ 保育分野 ～

【基本情報】（令和元年度時点）

1 参加学生（保育分野）

学科/こども保育学科

グループ① 1年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 36名

グループ② 2年生（歯科保健指導実施群） 36名

2 学生の特徴（保育分野）

- ・女子学生の割合が全体に比べて高い

3 学校の実情

- ✓全5学科あり、学科によりスケジュールが異なる
- ✓保育分野と福祉分野でキャンパスが分かれている
- ✓実習により毎日学校へのスクーリングがない期間がある
- ✓保育士や介護福祉士等、人相手の仕事であり職業的にも歯科保健の知識・理解は必要だと考えている



【実情を踏まえた取組みの工夫】

- ・学科によりスケジュールが異なるため、スケジュール調整がしやすいよう学科を絞って取組みを行った（保育分野の学科：1学科、福祉分野の学科：1学科）
- ・キャンパスが分かれている為、それぞれのキャンパスの担当者と取組みについて調整を行った
- ・授業の空きコマやホームルームの時間を使い取組みを行った

【取組内容】

■グループ①

令和元年度

歯科健診

歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和2年度

生活歯援プログラム

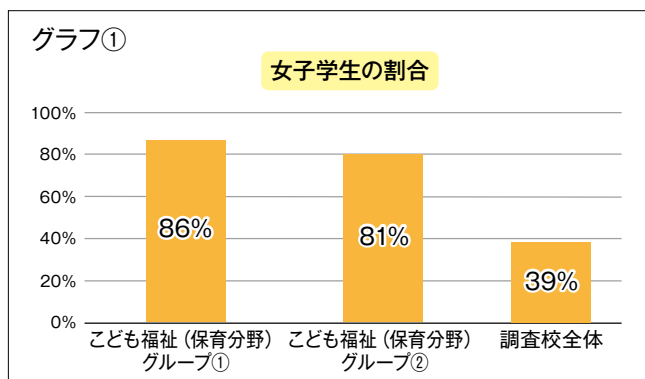
リスク診断

歯科保健指導動画の配信

コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信

口腔清掃用具の設置

SNS (Instagram) で情報配信



■グループ②

令和元年度

☑歯科保健指導（☑集団での講話 □個別歯科保健指導 □情報チラシの配布）

【取組の様子】

授業(創作活動)をしながら取組みを実施！

■グループ①

～歯科健診・歯科保健指導(個別歯科保健指導)の様子～

歯科健診等の待ち時間を無駄にしないよう、各学生に受診時間を記載した受診票を事前配布し、創作活動の時間中に、1人あたり10分～15分抜けて別室で歯科健診・歯科保健指導を行った。



■グループ②

～歯科保健指導(集団での講話)の様子～

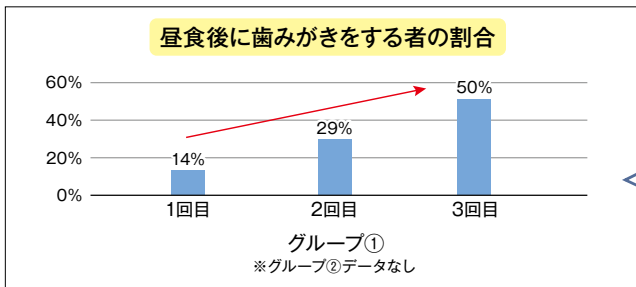
講話スライドをスクリーンに映しながら実施。

実習では歯みがきセットを配布し、清掃用具の使い方を確認したところ、自身の口腔清掃だけではなく、小児の仕上げみがきについて質問する学生がいた。



【学生にみられた変化】

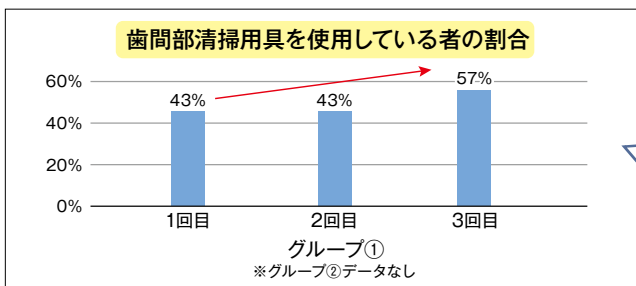
○昼食後に歯みがきを行う学生が増えました！



【学生の声】

- ・定期的にこのような取り組みを行うと歯みがきの意識が変わる。また、歯みがきセットをもらえると、好奇心により使ってみたいと思った。
- ・取組みがきっかけで昼に歯みがきしようと思いました。

○デンタルフロスを使用する学生が増えました！



【学生の声】

- ・歯みがきセットをもらったことで歯みがきに対する意識が上がり、デンタルフロスを初めてもらい、指導を受けながら使ってみてこれからも続けて使用しようと思った。

【学校担当者の感想】

小児歯科への関連付けをした内容にすることでより興味が持てる内容になり、目指す職業にもつなげた取組みになったと思います。「こどもの保健」という科目授業もあるので、その科目からのつながりも考慮できてよかったかもしれない。いずれにしろ、大人になると歯科保健への関心が薄れるので、再考するためのよいきっかけになったと思います。

モデル校No.5 国際こども福祉カレッジ

～ 福祉分野 ～

【基本情報】（令和元年度時点）

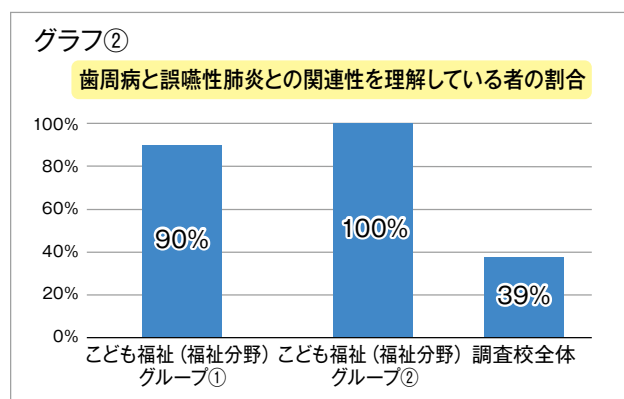
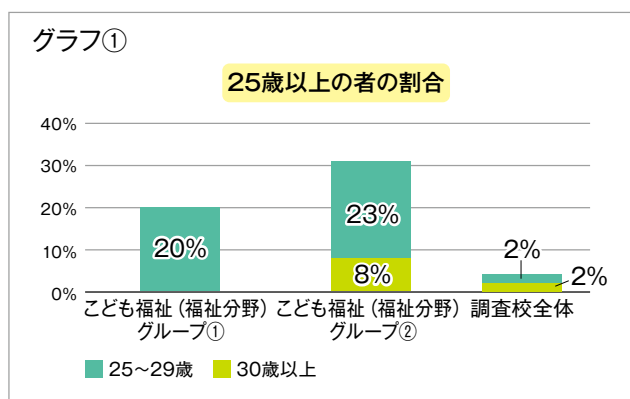
1 参加学生（福祉分野）

グループ① 福祉健康サポート学科 1 年生（歯科健診・歯科保健指導実施群） 10 名

グループ② 介護福祉学科 2 年生（歯科保健指導実施群） 13 名

2 学生の特徴（福祉分野）

- ・ 25 歳以上の学生の割合が全体に比べて多い
- ・ 知識として「歯周病と誤嚥性肺炎や認知症との関係」について理解している学生が多い



【取組内容】

■グループ①

令和元年度

- 歯科健診
- 歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

令和2年度

- 生活歯援プログラム
- リスク診断
- 歯科保健指導動画の配信
- コミュニケーションツール(LINE)での歯科保健相談・歯科保健情報の配信
- 口腔清掃用具の設置
- SNS (Instagram) で情報配信

■グループ②

令和元年度

- 歯科保健指導（ 集団での講話 個別歯科保健指導 情報チラシの配布）

【取組の様子】

■グループ①

～歯科保健指導（個別歯科保健指導）の様子～

歯科健診後に個別に歯科健診結果の説明と個々のお口の状況に合わせた歯みがきのポイント等を歯みがきセットを配布して確認した。

歯みがきのポイントを確認する際には、みがきにくい部位を鏡で確認している姿がみられた。

～口腔清掃用具設置の様子～

普段、トイレ内の洗面台で歯みがきを行う学生が多いが、衛生面と教室に設置した方が目につきやすいことから、教室後方に口腔清掃用具を設置、その上に用具の選択ポイントに関するポスターの掲示を行った。また、用具の使い方に関するポスターは、男女それぞれのトイレの洗面台に掲示したところ、全学生が用具を使用していた。



■グループ②

～歯科保健指導（集団での講話）の様子～

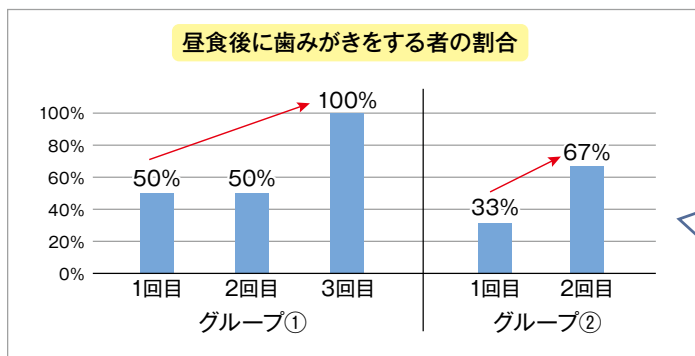
講話スライドをスクリーンに映しながら実施。

実習では、歯みがきセットを配布し、清掃用具の使用方法を確認した。

実習先で「舌ブラシ」を目にする機会が多いようで、舌ブラシの使い方について熱心に質問する学生もいた。

【学生にみられた変化】

○昼食後に歯みがきをする人が増えました！



【学生の声】

- ・学校に歯ブラシがあるだけで、昼食後の歯みがきをするようになったのでありがたいと思っています。健康な歯でいれるように頑張りたいです。
- ・歯の講話を受けてから、意識してみがくようになりました。

【学校担当者の感想】

高校を卒業すると、学校での歯科健診がなくなるため歯に対する学生の意識も低くなっていたが、今回のように歯科健診や歯科保健指導を行うことで改めて歯の重要性を理解できたと思われます。この取組みを行ったことで、昼食後の歯みがきをする学生が増えたほか、歯が痛くなければ歯科受診しない学生が定期的に受診する必要性を語っていたのが喜ばしかったです。

今後も特別授業の枠等を利用して歯科保健に関する取組みを行ってまいります。

学生の現状とニーズ

望ましい歯科保健行動(①昼食後の歯みがき ②デンタルフロスの使用 ③定期的な歯科健診の受診)について、学生アンケートで現状を調査し、同世代に広めていくための工夫について学生にインタビューやディスカッションを行いました。また、どのような条件だと行動に移しやすいか、シミュレーションを行いました。

【概要】

■学生アンケートでの現状調査 (令和元年度実施)

歯科保健に関する取組み実施前に、アンケート調査を行い、現状を調査した。

調査対象者数 . . . 533 名

<内訳>

グループ①(歯科健診・歯科保健指導実施群) . . . 294 名

グループ②(歯科保健指導実施群) . . . 172 名

グループ③(比較対象群) . . . 67 名

■インタビュー・ディスカッション(令和元年度実施)

望ましい歯科保健行動について、同世代に広めていくための工夫について、グループ①(歯科健診・歯科保健指導実施群)の学生を対象にインタビューまたは、そのテーマに沿ってディスカッションを行った。

<インタビュー回答者>

・新潟県立看護大学 . . . 21 名

<ディスカッション参加者>

・クレアヘアモード専門学校 . . . 20 名

・JAPAN サッカーカレッジ . . . 8 名

・国際こども福祉カレッジ(こども保育学科) . . . 30 名

(福祉健康サポート学科) . . . 10 名

■歯科保健行動実態調査(令和2年度実施)

望ましい歯科保健行動について、現在身についている学生はどのような条件や環境で行っているか WEB 調査を行った。

<WEB 回答者>

・クレアヘアモード専門学校 . . . 20 名

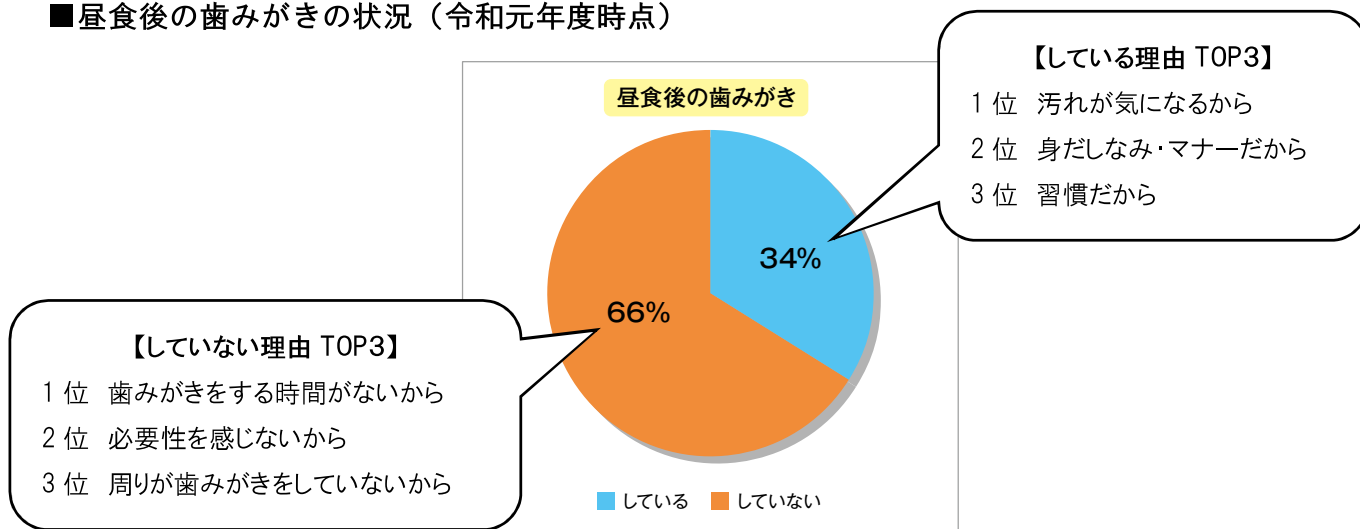
・JAPAN サッカーカレッジ . . . 93 名

・国際こども福祉カレッジ(こども保育学科) . . . 19 名

(福祉健康サポート学科) . . . 8 名

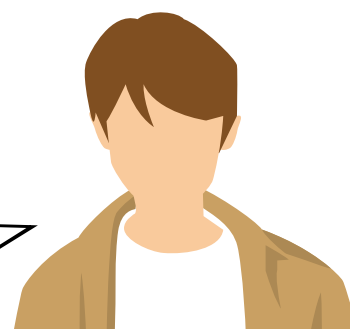
<望ましい歯科保健行動①：昼食後の歯みがきについて>

■昼食後の歯みがきの状況（令和元年度時点）



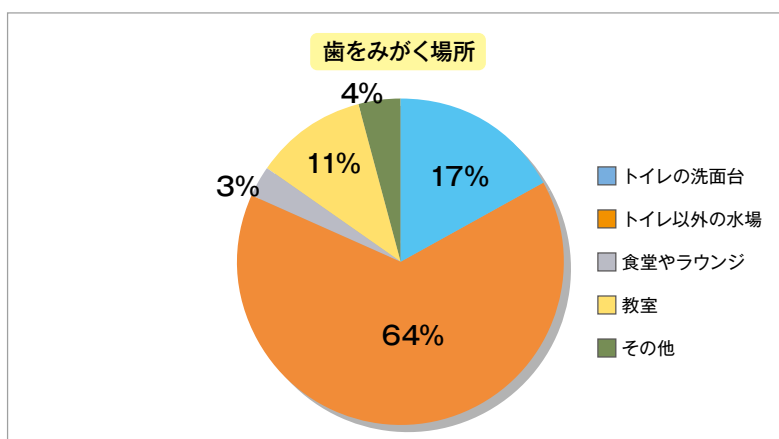
■こんな工夫で同世代に広まるのでは？学生の意見（一部抜粋）

- ・歯ブラシを置く場所を作る
- ・洗面所の数を増やす
- ・歯みがき専用のスペースを作る
- ・歯みがきの時間を設ける
- ・歯ブラシや歯みがき剤を校内で販売
- ・大切さをポスターや SNS で発信する
- ・水場をきれいに保つ



■半数以上の学生がトイレ以外の水場で実施している

「どこで昼食後の歯みがきを行うか・・・」既に昼食後の歯みがきを行っている学生に現状を回答してもらった結果、半数以上の学生がトイレ以外の水場で実施していた。

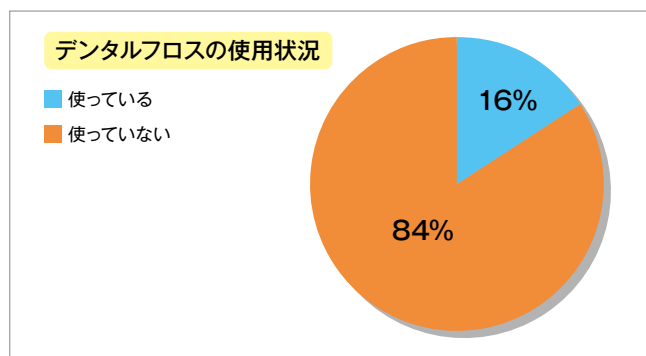


全体の 6 割以上の学生が昼食後の歯みがきを実施しておらず、その多くは「時間がないから」できていない状況です。インタビュー・ディスカッションでも「時間の確保」に関するアイデアが多く出た。

また、歯みがきをする場所としては、トイレ以外の水場で実施している学生が多く、インタビュー・ディスカッションでも「歯みがきスペースの確保」や「水場を清潔に保つ」ことでモチベーションがあがるとの声があがった。

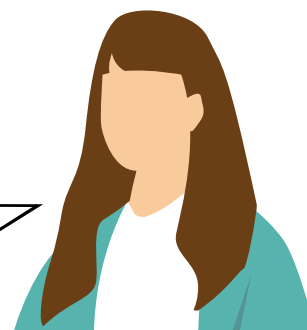
<望ましい歯科保健行動②：デンタルフロスの使用について>

■デンタルフロスの使用状況（令和元年度時点）



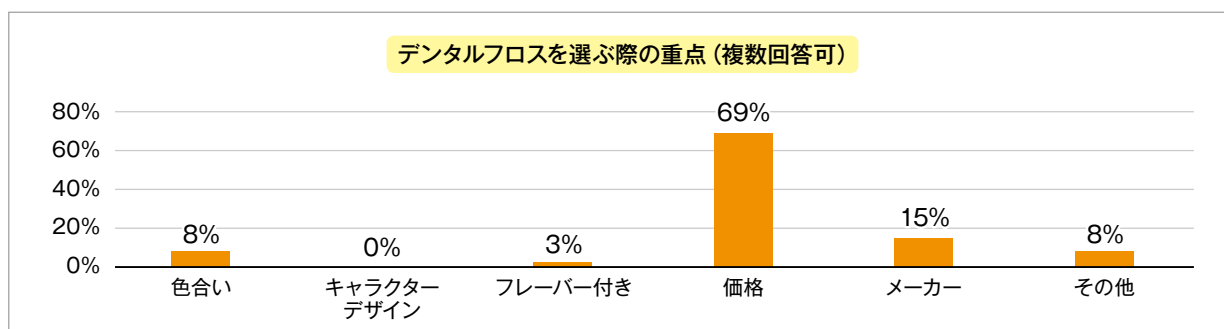
■こんな工夫で同世代に広まるのでは？学生の意見（一部抜粋）

- ・水場にデンタルフロスを置いて、試しに使ってもらえるようなコーナーを設置
- ・キャラクターものやかわいくてカラフルなものを置いておく
- ・無料で配布する
- ・デンタルフロスを使用するメリットを広める
- ・専門の人を呼んで使い方を学ぶ
- ・実際に使う体験をして、使ってよかったと実感してもらう



■デンタルフロスを選ぶ際は「価格」を最重要視している

デンタルフロスを既に使っている学生に、デンタルフロスを選ぶ際の重点を回答してもらった結果、価格を最も重要視していた。



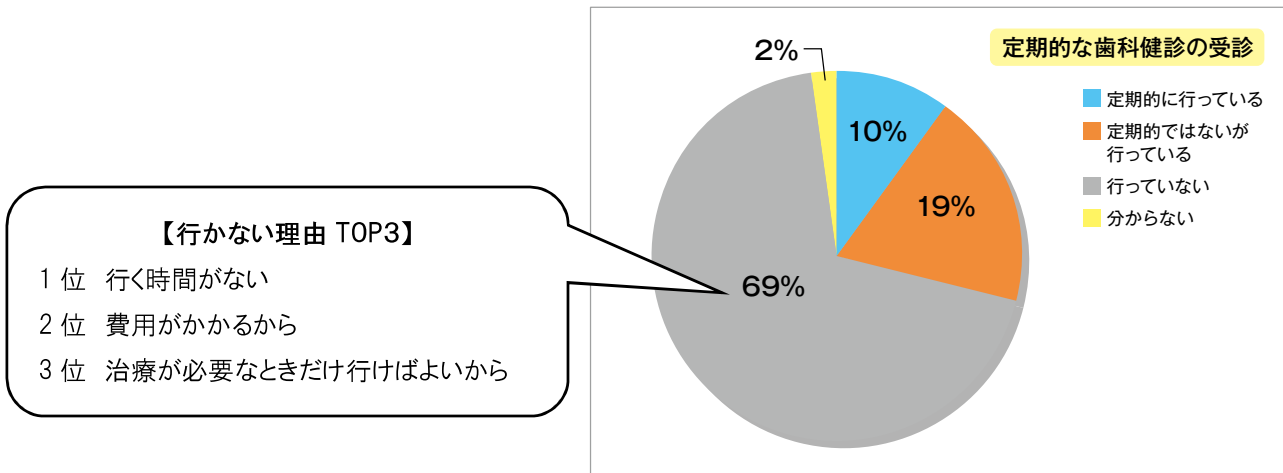
デンタルフロスを使用する習慣のある学生は全体のわずか16%であった。

使っていない学生が使う習慣を身に付けるためには、『デンタルフロスの入手』がまず課題となり、インタビュー・ディスカッションでは、『デンタルフロスの入手』につながるような「デンタルフロスの体験」や「メリットの実感」に関するアイデアが多くあがった。

デンタルフロスの入手については、「価格帯」を最も気にするという声が多く、デンタルフロスの使用・継続を勧めるには、学生の立場から金銭面にも配慮が必要だと思われる。

＜望ましい歯科保健行動③：定期的な歯科健診の受診について＞

■定期的な歯科健診の受診状況（令和元年度時点）

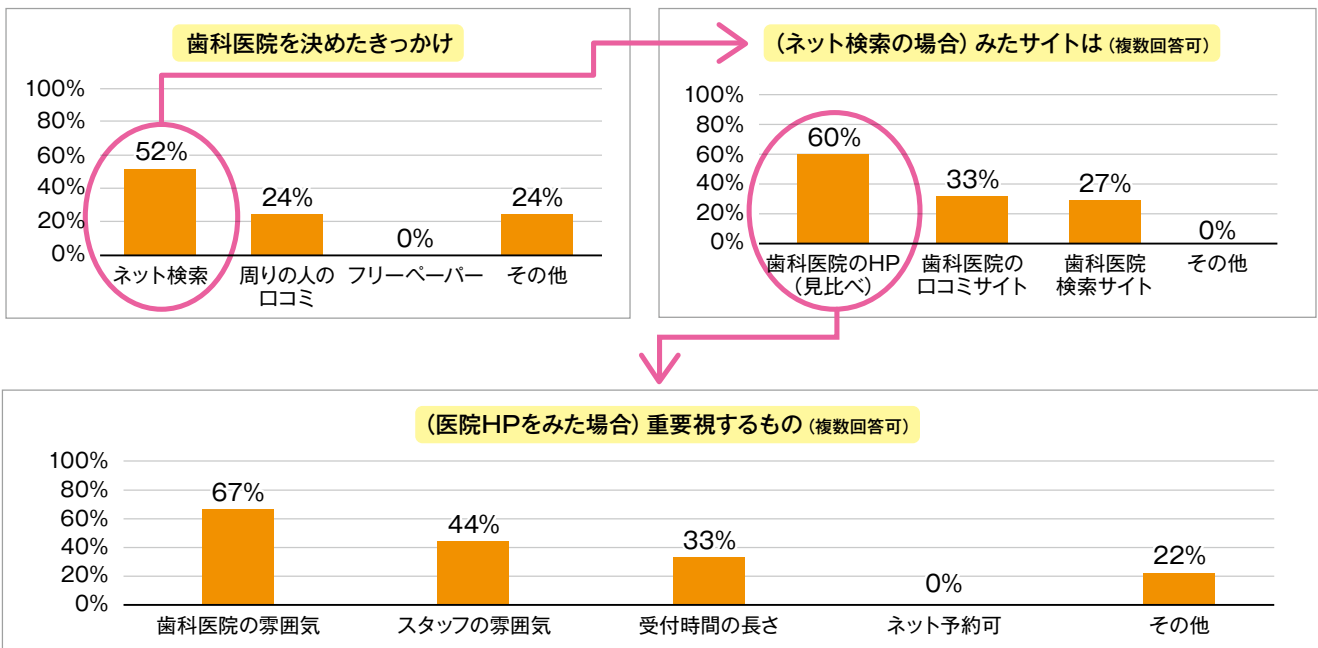


■こんな工夫で同世代に広まるのでは？学生の意見（一部抜粋）

- ・学校で歯科健診を行う
- ・歯科健診は公欠にする
- ・歯医者は楽しそうにみえないから、楽しそうに見えるようにする
- ・BGM等、歯科医院の雰囲気をよくする
- ・学生割引があると嬉しい。一人暮らしの学生もいるので、安くなれば健診に行くかも
- ・ホットペッパーのようにネット予約できる歯医者を増やす

■ネット検索で歯科医院を選定する学生が多い

定期的な歯科健診を受診している学生に、その歯科医院に通おうと思ったきっかけを回答してもらった結果、半数以上がネット検索で歯科医院を決めていた。また、ネット検索では主に医院のHPの見比べや口コミサイトの情報を参考に、歯科医院やスタッフの雰囲気を重要視する学生が多いことが分かった。



全体の約 7 割が全く歯科健診に通っていない現状で、その理由の多くが「時間」と「費用」に関するものであった。

インタビュー・ディスカッションでは、一人暮らしの学生でも金銭的にかかりやすいよう「学割制度」や「歯磨き用品のおまけ」等のアイデアや、時間をつくりやすいよう「歯科受診は公欠にする」等のアイデアがでた。

また、一部の学生は「歯科医院＝怖い」イメージもあり、「歯科医院の雰囲気をよくする」といったアイデアもあった。

歯科医院選びについては、多くの学生が「ネット検索」で、「歯科医院・スタッフの雰囲気」を重要視して行っており、歯科医院のホームページコンテンツにより受診につながる可能性があることが分かった。

＼ 歯科保健の取組みに使える! ／

歯科保健活動用 媒体紹介

校内での歯科保健活動に使える広報物について、下記ホームページ上で掲載しています。（フリーダウンロード）ご活用ください。

■健康にいがた 21（新潟県ホームページ）



<https://www.kenko-niigata.com/kouhou/index.html>

■新潟県ホームページ



<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kenko/1356770477396.html>

■新潟県歯科保健協会ホームページ



<https://www.niigata-dhs.com/blank-5>



おわりに

本事業では、モデル校で歯科保健に関する取組みを行い、その後の学生の保健行動や習慣の変化から効果的なアプローチ方法を検討しました。

しかし、事業の途中に新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、当初の予定と大きく変更した内容となり、また、調査対象に大きな制限を受けました。

そのため事業の目的である「効果的なアプローチ方法」を検討するには、十分とは言えない部分もありましたが、学生の歯科保健に関する現状や、学生が求めているニーズを把握することができました。

また、本事業では異なる分野の大学・専門学校にモデル校として協力をいただきましたが、大学と専門学校では制度やカリキュラムが異なり、また学校によってはコンテストや国家試験、臨地・臨床実習があり、学生の動きや繁忙期が異なるため、画一的な取組みの実施は難しく、大学や専門学校ごとの特色をみながら取り組んでいく必要性を感じました。

関係各位には、より多くの学生が、社会に羽ばたいてからも自身の健康を保ちながら活躍できるよう、この「おとなのデンタルヘルスサポート事業（大学・専門学校支援モデル事業）報告書」を上手くご活用いただけますと幸いです。

発行：新潟県・(公財)新潟県歯科保健協会

発行日：令和4年3月

協力：おとなのデンタルヘルスサポート事業 検討委員

葭原 明弘(新潟大学医歯学総合研究科 教授)

市川 優(新潟大学医歯学総合研究科 予防歯科学分野)

斎藤 主税(NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター理事、事務局長・NPO 法人まちづくり学校正会員)

土屋 信人(新潟県歯科医師会 理事)

山田 智子(新潟県歯科衛生士会代表)

木戸 寿明(新潟県歯科保健協会 専務理事)

清田 義和(新潟県福祉保健部健康づくり支援課 課長補佐)

おとなのデンタルヘルスサポート事業 モデル校及び学生のみなさん

新潟国際情報大学

新潟県立看護大学

学校法人エイシンカレッジ クレアヘアモード専門学校

学校法人 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ

学校法人 国際総合学園 国際こども・福祉カレッジ

